

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年3月30日(2006.3.30)

【公開番号】特開2005-60691(P2005-60691A)

【公開日】平成17年3月10日(2005.3.10)

【年通号数】公開・登録公報2005-010

【出願番号】特願2004-222847(P2004-222847)

【国際特許分類】

C 08 L 67/04 (2006.01)

B 29 C 45/00 (2006.01)

C 08 J 5/06 (2006.01)

C 08 K 7/02 (2006.01)

C 08 L 101/16 (2006.01)

【F I】

C 08 L 67/04 Z B P

B 29 C 45/00

C 08 J 5/06 C F D

C 08 K 7/02

C 08 L 101/16

【手続補正書】

【提出日】平成18年2月14日(2006.2.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

本発明の射出成形体は、(A)乳酸系樹脂、及び、(B)セルロース40質量%~60質量%とリグニン10質量%~30質量%とを含有する天然纖維、を含む樹脂組成物であって、(A)乳酸系樹脂と(B)天然纖維とを質量比で99:1~70:30の割合で含有し、かつ、前記(A)乳酸系樹脂が、L乳酸:D乳酸=100:0~97:3、又は、L乳酸:D乳酸=0:100~3:97である樹脂組成物を用いてなることを特徴とする。

【請求項2】

前記樹脂組成物の結晶化熱量ピーク温度(Tc)は100以上であることと特徴とする請求項1記載の射出成形体。

【請求項3】

射出成形体の荷重たわみ温度は133以上であることを特徴とする請求項1又は2記載の射出成形体。

【請求項4】

前記(B)天然纖維を(A)乳酸系樹脂に含浸(浸漬)させた被覆物と、(A)乳酸系樹脂とを混練した後、形成されることを特徴とする請求項1から3のいずれか1項記載の射出成形体。

【請求項5】

引き抜き成形によって前記(B)天然纖維を(A)乳酸系樹脂に含浸(浸漬)させた被覆物と、(A)乳酸系樹脂とを混練した後、形成されることを特徴とする請求項4記載の射出成形体。